

こんにちは。  
町長です。

## 今年を振り返って思うこと



月日の経つのは早いもので、師走を迎え、あとひと月で今年も終わります。今年5月1日から元号が令和に代わり、平穏な年であることをお祈りいたしました。この一年町は大きな災害等に見舞われました。

まず、9月17日に町内で豚コレラが発生し、これは同月13日に秩父市内で発生したのに引き続き県内で2例目となりました。その結果、1300頭を超える豚が殺処分されました。県も全庁を挙げてこれに対応していただき、町も道路封鎖や対応基地の設置など県に全面的に協力いたしました。周辺地域住民の皆様にも協力いただき、スムーズな感染防止に向けての防疫作業が実施出来ました。大野県知事もいち早く対応していただき、国に働きかけなどを行い、国も豚コレラワクチンの接種を実施する方針を決定し、県内では既にワクチン接種が行われました。県の早い対応が国を動かし、被害を受けなかった養豚農家が守られることにつながりました。被害を受けた養豚農家には、お見舞いを申し上げます。

また、10月11日から12日にかけて襲来した台風19号の記録的な大雨により、町内でも甚大な被害が発生しました。家屋の被害をはじめ、道路、橋梁、河川等の被害は町内各所で多数発生いたしました。町でも避難所を7箇所開設し、最大避難者数は506人を数えました。両神地区では、道路崩壊により孤立世帯が発生し

ましたが、県の早い対応で仮復旧が行われ、孤立世帯も2週間程度で解消されました。幸いにも死傷者が発生しなかったことが救いではありました。被災をされた皆様にお見舞いを申し上げますとともに、一日でも早く普通の生活に戻れるよう町でも全力を挙げて対応させていただきます。

この台風時の対応では、多くの町民の皆様は町の避難勧告・指示が発令される中で冷静な判断をしていただき、早めに避難所への避難をしていただいたこと、また、町内のある地区では日ごろからの話し合いの中で避難する際の方法等が確立されており、自家用車の乗り合わせで避難所へ避難された方もいらっしゃいました。やはり、普段から防災意識を高め、まず、自分で出来ることは自分で行き、次に周りの助け合いの中での協力、支援、そして最終的には公助として町等の支援を受けることが大切であると思います。言い古された言葉ではありますが、「自助、共助、公助」の意識の徹底は重要です。

ところで、今年はラグビーワールドカップが日本で開催され、熊谷ラグビー場でも試合が行われました。日本チームは大活躍し、初めてベスト8まで進出しました。日本チームのスローガンは「ONE TEAM (ワン チーム)」でした。困難を乗り越えていくためには、お互いに理解し尊重し合うことが大切であることを日本ラグビーから学ぶことが出来ました。

小鹿野町長 森 真太郎